

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵日より

第31号

2019(令和元)年7月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

関わる者の視点 — 生活工芸双書『棉』について —

農文協から生活工芸双書の1冊として『棉』が出版されました。農文協とは、一般社団法人農山漁村文化協会の略称。おもに農業、健康、教育などの分野の書籍・雑誌・DVDを出版する出版社です。創立は1940年。元農林水産省所管の法人で、これまでに『明治大正農政経済名著集』(全24巻、1975年-1977年)、『昭和前期農政経済名著集』(全22巻、1978年-1981年)、『昭和後期農業問題論集』(全24巻、1982年-1986年)、『明治農書全集』(全13巻、1983年-1986年)、『安藤昌益全集』(全21巻、別巻1、増補篇3巻、1982年-1987年。毎日出版文化賞・物集索引賞受賞)など、農政史を考える上で重要な、価値の高い全集の出版に取り組む一方、子ども向けの絵本『そだててあそぼう』シリーズ(既巻105巻、2004年学校図書館出版賞・特別賞受賞)、『つくってあそぼう』シリーズ(既刊40巻)などの出版も手がけています。月刊『現代農業』を編集発行しているのも農文協です。本誌第23号で取り上げた江戸時代の「山本家百姓一切有近道」も、農文協発行の『日本農書全集』(全72巻、1977年-1999年)に収められています。『ワタの絵本』は『そだててあそぼう』シリーズの第10巻です。

本年3月に発行された『棉』は、「地域資源を活かす生活工芸双書」全9巻10分冊の一冊です。このシリーズは①『苧(からむし)』、②『萱(かや)』、③『楮・三桮(こうぞ・みつまた)』、④『漆の1』、④『漆の2』、⑤『桐』、⑥『竹』、⑦『大麻(あさ)』、⑧『棉』、⑨『藍』で構成されています。

第8巻にあたる『棉』は、1章「植物としてのワタ」、2章「利用の歴史」、3章「各地の取り組み」、4章「ワタを栽培する」、5章「ワタが布になるまで」、6章「ワタを利用する」という章立てになっており、植物としてのワタの栽培や、木綿織物など繊維としてのワタに関わる者の視点に立ったアプローチがなされており、大変有益で参考になります。

たとえば、1章ではワタの植物学的な分類と位置づけ、繊維としてのワタの特性、構造、評価の方法などが詳細に記されています。本誌第14号で紹介した木綿庵産の綿の品質検査結果の見方も、この章の解説によって初めて概要を知ることができました。4章の栽培方法については、実際に栽培に取り組んでおられる方なればこそ書くことのできる解説が満載で、読み応えがあります。病虫害についても具体的で、これほど懇切丁寧な栽培解説書は初めて見たような気がします。

ワタの栽培や、収穫したワタの利用を考えておられる方にはぜひとも手にとって見ていただきたい一書です。

本書は11名の方々が分担執筆されており、代表執筆者として森和彦、松下隆の両氏の名が挙げられています。森氏は日本オーガニックコットン協会理事長、松下氏は全国コットンサミット実行委員会事務局をお務めです。両氏共に、実際に綿の栽培や収穫した綿の利用に深く関わる現場の方々との強いネットワークをお持ちであるからこそ出来た本であるように思います。

日本オーガニックコットン協会は <http://joca.gr.jp/>、全国コットンサミットは <https://www.facebook.com/cottonsummit/>参照。

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和元年7月24日～7月23日)
京都府2

【H.A.M.A.木綿庵】(令和元年6月24日～7月23日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2名



農文協発行の『棉』と、『ワタの絵本』



《綿の栽培記録 2019》－ 平成31年(令和元年)度版 その6 －

7月に入り、初旬から中旬にかけて綿の開花が始まりました。今年は1号畑のほかに5号、6号、7号畑でも綿の植え付けをおこなっています。1号畑では例年通り和綿の白と洋綿の白。5号畑も同じく和綿の白と洋綿の白。6号畑では和綿の茶と洋綿の茶。7号畑では洋綿の緑です。1号畑の和綿の2畝では、畝によって土づくりに差を設けたため、東列と西列とでは生長の具合が異なります。東列に比して西列の方が順調です。

なお、それぞれの綿木の背丈は7月24日時点で、1号畑の和の西列の平均90cm、洋の平均80cm。5号畑の和95cm(摘芯を忘れていた綿木は135cm)、洋90cm。6号畑の和95cm、洋100cm(最高125cm)。7号畑の洋150cm(最高170cm)です。7号畑の播種は他より早く、4月28日です。

写真は上段左：1号畑和の青木の花、中：1号畑和の赤木の花、右：1号畑の洋の白綿の花。中段左：和綿の青木、中段中：洋綿の木、中段右：1号畑全景。下段左：6号畑の和の茶綿の花、下段中：7号畑緑綿の花、下段右：7号畑全景。



《Instagramをはじめました》－ you_and333 －

綿の生長や畑の様子を紹介しています。木綿庵のHPトップからも閲覧が可能になりました。

【綿の加工の作業記録】 (梅田 1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成29年, 2017産。丹羽正行氏による打ち綿)
6月24日～7月23日 (作業実日数15日) 糸の総量64.3g (17.1匁) 総時間208分 (3時間28分)
※1分間≒0.309g 1時間≒18.5g (4.9匁)

【研修等の記録】

- 令和元年07月23日 社会福祉法人青葉仁会(奈良市杣ノ川町)の綿畑を訪問、見学。